広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	言葉の色々な数字〈特集〉
Author(s)	大庭，拓郎
Citation	広大言語 , 7 : 7 - 14
Issue Date	1967-12-18
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046265
Right	
Relation	

— 10 zëhente, zëhende, — 11 einlifte, eilifte, eilfte, elfte, — 12 zwelifte, zwelfte, —13 drîzëhende, driuzehende, — 14 vier zëhende usw. — 20 zweinzegeste, zwênzegste, — 21 einez unde zweinzegeste, êrste unde zweinzegste, — 30 drîzegeste, — 40 vierzegeste, usw. — 100 zëhenzegeste, hunderteste, — 1000 tûsendeste, tûsentste.

（完）

言葉の色々な数字

大　庭　拓　郎

＊1　言葉、生活環境は異つていても人間考えることは同じと見えます。例えば次の格言に於いては共に「あることにひいでている人でも時々誤りをする」ということを表現しています。仏人は馬で表現し、英米人はかの有名なホーマーで、日本人は弘法で、あるいは猿でそのことを表現しています。

仏　人　Il n'y a si bon cheval qui ne bronche.（どんなよい馬でもつまづく。）

英米人　Even Homer sometimes nods.

日本人　「弘法も筆の誤り」「猿も木から落ちる」

広大言語第4号「フランスの諺」（原野昇著）

＊2　足を無数に持つているあの気味の悪い「ムカデ」は漢字で書けば百足となりますがこれを英語ではcentiqepeと書きますが、この語源を調べてみるとラテン語のcentum(100)+Pēs(foot)=>hundred-footed insectでcentipedeとなります。ドイツ語ではder Tausendfub, 仏語ではle centpieds であり、百も千も共に「すごく沢山あること」を意味しています。更に足の数が多くなると、たとえば「やすで」の様なものは百萬足と考えてmillipede になつています。

＊3　「百足」「千足」のムカデの話しはこの辺にして少し日常の表現の中に見られる数字につ

いて続けてみましよう。

「百聞は一見にしかず」等に見られる様に文章表現中に数字を用いることがよくありますが、先ず一から始まつて「一を知つて十を知る」「二従兄弟」「三つごの魂百まで」「四苦八苦」「五重の御衣」「六地蔵」「無くて七癖」「八方美人」「九死に一生を得る」「十人十色」等である。

＊4　数は更に大きくなつて「一日千秋の思い」「万事休す」「白髪三千丈」とスケールは大きくなつてきます。七．八．九というのは沢山あることを意味して「七面鳥」「七面倒だ」「七つ道具」「八方美人」「八つあたり」「九牛の一毛」「十人並み」「十年一日の如し」の様に用いられています。

＊5　だんだん数字は大きくなつて来て「百」「千」「万」になると沢山ありすぎて書き出せないほどで、近頃はその用いる数字の単位もますますスケールが大きくなりつつある様です。諸物価．値上がりで、月給の額だけは大きくなりはしたものの物価の方も比例して大きくなつたので「百万長者」と言つてもピンと来なくなり「億万長者（billionaire）」でないと感じが出なくなりました。

１００

「百貨店」「百科辞典」「勇気百倍」「百戦練磨」「百も承知」「百発百中」「ここで会つたが百年目」「五十歩百歩」「読書百遍意自ら通ず」「雀百まで踊り忘れぬ」「酒は百薬の長」「百害あつて一利なし」等

１０００

「一日千秋の思いで待つ」「千両役者」「海千山千」そして「八百屋」「八百長」もあります。更に「万民」「万人向き」「万引」「万事休す」「万国博覧会」「万物の霊長」「万障繰り合せて出席して下さい」「用意万端」「万能選手」「万一」「万全を期す」「万年筆」「万年雪」そして「万年床」となるとちよいと不潔になります。

１０００＋１００００

更に千と万を丁寧に重ねて「危険千万」「物騒千万」「失敬千万」「千客万来」「千変万化」「千差万別」「万丈の山千仞の谷」というのもあります。

＊6　これらの数字を用いた日本語の表現を外国語で表現することはなかなかむずかしいもので

す。

She talked nineteen(or thirteen)to the dozen.(俗語的表現)

(彼女はひっきりなしにしゃべりまくった。)

I have a hundred things to do.

(私はたくさん仕事がある。)

She is a beauty in a thousand.

(彼女は大変な美人である。)

It is miles easier.

It is miles and miles easier.

(その方がはるかにたやすい。)

「十中の九まで君はおそらく忘れるだろう。」

(It's ten to one that you will forget it.)

「あなたのお帰りを一日千秋の思いで待つ。」

(I can hardly wait till I see you.)

「私は彼に一目置いている。」

(I rate him superior to myself.)

∵ In the japanese game of "Go" I must one stone advantage over him to begin with.

『これを英語で何というか』(松本享著)

＊7 She talked nineteen(thirteen) to the dozen. の表現に見られる様に nineteen to the dozen の様に用いる由来を調べてみると大変興味深いことと思いますが、それは次号に譲ることにします。

先日ある本を読んでいるとネクタイのことを英語で four-in-hand と言うがこれはネタタイを結ぶ時、ちようど4回で結べるのでこの様に言うのであろうと書いてありましたが、この様にして覚えた単語は絶対に忘れないでしよう。私が大学在中の時、目下、ソルボンヌ大学できれいなパリ娘と勉強している原野君がこんなおもしろい単語の話しをしてくれましたが、偶然ではありましようが、各々発音がよく似ていてなんと愉快なことでしよう。

1 itch　2 knee　3 son　4 she　5 go　6 rock　7 hitch

8 hatch　9 queue　10 jew

ではこの辺でひとまず数字の話しは終ります。続いて「言葉と色（language and color）」について少し続けていきます。

※1　月曜日という日はいずこでも melancholy になるものらしくて Blue Monday なる nickname が付けられています。John Steinbeck の "Travels with Charley" のP・46に I felt so blue and miserable I wanted to crawl into a plastic cover and die. なる文章があります。ここで用いられている blue には文字通りの blue（青）という意味ではなくて melancholy という意味に用いられています。ちようど私の担当の商業科の英語の授業に使用しているNHKの"Listen to me！"の昭和41年度10月5日・12日の両日に "color" についての放送があり私は大変興味が湧き、少し調べてみました。

when we say a person is blue, we can mean, of course, that he is literally blue, blue from the cold. Usually, though, people aren,t really that cold. A person who is blue is more often one who is sad. It is, by the way, from this meaning of "blue" as "sad" or "melancholy" that we get the name "blues" for a kind of music. In the blues the singer sing of the sorrow of life; usually a girl blues singer is sad because her boy-friend has left her, or vice versa

NHK. Listen to me

S. 42. 10. 5

※2　「青二才のくせして何を言うか、ばかやろう！」とか「青くさいやろうだ、あいつは」などとよく用いられる表現ですが、

He is still blue. とは言わないで、

He is still green. と英語では言つています。この green には① inexperienced ② jealous の意味もある様で Shakespeare の "Othello" の Act Ⅲ. Sc. ⅲ L. 165に次の様に書かれています。

O, beware, my lord, of jealousy; It is the green-eyed monster
which doth mock The meat it feeds on ; that cuckold
lives in bliss Who, certain of his fate, loves not his
wronger But, o, what damned minutes tells he o'er
Who dotes, yet doubts, suspects, yet strongly loves!

「将軍、恐ろしいのはしっとです。それは恨なじりを緑の炎に燃えあがらせた怪獣だ。人の心を餌食とし、それを苦しめ、弄ぶのです。たとえ妻を寝とられても、すべてを運命とあきらめ、裏切つた女に未練を残さぬ男は、むしろしあわせと言うべきでしよう。しかし、これほどつらいことはありますまい。愛して、なお信じえず、疑つて、しかも愛着する、そういう日々を一刻一刻かぞえながら生きねばならぬとしたら！」

※3 jealousy というものは「gveen の目をした怪物」であるといつています。本当におもしろいことを言うものです。ですが、また、一方、Shakespeare は「green の目は美人の印でもある」と“Romeo and Juliet”と“A Midsummer-Night's Dream”で次の様に言つていますからこんがらがつて来ます。
jealous woman ほど beauty であるという結論になりそうですが？

I think it best you married with the country
O, he's a lovely gentleman!
Romeo's a dishclout to him; an eagle, madam,
Hath not so green, so fair as foe fair an eye
As Paris hath…; Romeo and juliet Act SC. V. L. 219

「やはりお嬢様は、伯爵様におかたづきなさるほうがよかろうと存じます。パリス様といえば、これはまたお美しい殿方！あの方とおくらべ申しましては、ロミオ様はぞうきん同様、それにパリス様のようなあの青い、きれいな、いきいきとしたおひとみは空飛ぶ鷲だとてもおよぶものではありません。

中野好夫訳

These yellow cowslip cheeks,
Are gone, are gone ;
Lovers, make moan:
His eyes were green as leeks.

A Midsummer-Night's Dream
Act V. Sc. i. L. 340··

note ;
"A green eye"is regarded as a point of beauty (onions)

「この桜草のほつぺたも
みんな冷たくなつてしもうた。
恋人たちよ、泣いて下され。
目はにらのように緑だつたになあ。
三神勲訳　」

※4 「まつかなウソ」「赤ウソ」などと言いますがこの「赤」というのは「全く明らかなウソ」が短くなつたものらしいとのこと。英語では a white lie「罪のないウソ」a black lie 「悪意のあるウソ」と言つている。

米国の The White House は大変有名ですがヴエノス．アイレスの The Pink House もあるのだから世は様々です。どうせ住むならば Sweet Home もたぶんすばらしいだろうが(?) Pink House というのもおもしろそうですな！子供はそれにしてもまあ、かわいらしいものですが時々「赤んべい」などすると「こにくらしく」なつてきます。
「あの子は私に赤んべいをした」
(That kid made faces at me.)　松本享訳

※5 Asahi Evening News, Thursday. September 1 1966 の Color Idioms(196)—By prof. Virginia B. Haley に次の様に記されていた。

・She was green with envy over her friend's new mink coat. (jealous)

・Ide has a yellowstreak dovon his fack. (cowardly)

・Id turned the air blue. (swore)

・Iam in the pink of condition. (healthy)

・To me, mistreating a child is like a red flag to a bull. (incites anger)

・Once in a blue moon I go to the movies. (almost never. seldom)

・Are yau conseruatwe or pink? (slightly "left" ideologically)

・Ide grew purple with rage. (very angry)

・Communists and marxists are red. (communists)

・Never allow red rage to control you. (anger)

・Japanese immigration regulations are so fullof red tape. (many regulations)

＊6 一番鳥も鳴き、あたりにさまよつていたghasts も帰つて行きました。美しい夜明けです。その夜明け(daybreak)の情景

At the sight of the sunrise, you are sure to be enchanted with its beauty. shakespeare desovihes the daybreak in his play "Hamlet", this way.

—But look, the morn in russet montlc clad
Walks o'er the dew of yon high eastward hill.

Hamlet. Act. Sc. i L. 166

「やつ、見たまえ、朝が赤いマントを着て、向こうの山の露をふんで、もうやつて来た」—

(三 神 勲 訳)

※7 石より白し秋の風(　　)に於ける「秋の風は白い」というのはおもしろい。中国に於いては「北(冬)」には玄武という神が住み、亀を描いてその象としていて、「南(夏)」に

は朱雀、「東（春）」には青竜がそして「西（秋）」には白虎の神がいるとされているのによるのだろう。北原白秋という名前も西原白秋とした方が味が出るかもしれませんな！バラ色の「青春」というのもこう考えると楽しくなつて来ます。　　ＥＮＤ

Prop-word 'one' について

森　岡　敬　史

原稿締め切り数日前に特集「数詞」について題材を探していると何時の間にか興味がProp-word one の方に傾いたためここにそれを纏めようと思います。

〔Ｉ〕 Prop-word とは形容詞に添えて複合語、又は句の形としてこれを（代）名詞化する語を指すのである。Body(everybody, arybody, etc.), Thing(everything nothing, etc.)one 等がそれである。Body は persoral に Thing は neuter に one はそのどちらにも用いる。又 Prop-word 'one' は不定代名詞 one を指し Prop-word の中で一番重要なものである。

現代英語の a good one の構案の起源について多くの人々が説明しているが明確な決め手はまだ無い。唯不定代名詞 one は数詞から生まれたに違いないと云うだけである。

数詞には大別すると基数詞と序数詞があり基数詞には（代）名詞的用法、形容詞的用法がある。序数詞にもその２つの用法と副詞的用法がある。しかし大部分の数詞の用法は代名詞的用法と形容詞的用法である。

(1) 名詞的用法

One of them went below.

She was scarcely nineteen.

He was the first to help me.

(2) 形容詞的用法

I saw the girl three years after.

The first man who had spoken to them, laughed too.

数詞の名詞的用法は上の例でも解かるように全く形容詞的な面を持つている。つまり数詞の後に名詞を補ない数詞自身が形容詞になることが容易なものが大部分である。